



# 四国アイランドリーグplus 2017開幕記者会見資料

【 第一部 】

リーグ・球団経営報告

# 目次

- ・ 愛媛マンダリンパイレーツ球団 経営報告 ( P 3 ~ P 6 )
- ・ 徳島インディゴソックス球団 経営報告 ( P 7 ~ P 10 )
- ・ 香川オリーブガイナーズ球団 経営報告 ( P 11 ~ P 14 )
- ・ 高知ファイティングドッグス球団 経営報告  
( P 15 ~ P 18 )
- ・ 四国アイランドリーグplus 経営報告 ( P 19 ~ P 22 )
- ・ 四国アイランドリーグplus 2 0 1 7 年度の取り組み  
( P 23 ~ P 25 )
- ・ 2 0 1 7 シーズン ホーム開幕戦日程 ( P 26 )



# 愛媛マンダリンパイレーツ 球団経営報告

# 愛媛球団会社概要



- 球団名：愛媛マンダリンパイレーツ
- 球団社長：薬師神 績
- 運営会社：愛媛県民球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金：300,000,000円
- 社員数：7名(出向・その他社員含)
- 主要スポンサー：(株)愛媛銀行、大王製紙(株)、  
(株)ビージョイ、(株)フジ、  
太陽石油(株) 他

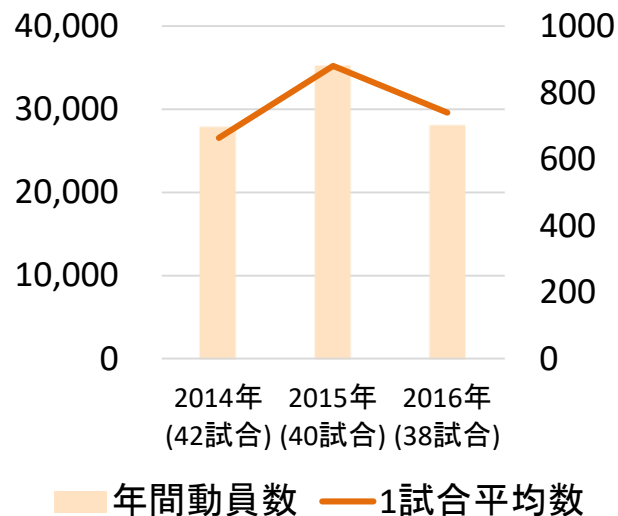
# 愛媛球団観客動員



	2014年	2015年	2016年	前年比
年間動員数	27,871 (42試合)	35,206 (40試合)	28,104 (38試合)	80%
1試合最多動員数	2,488	3,148	2,688	85%
1試合平均数	664	880	740	84%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

## 観客動員数推移



## 2016年ホーム試合

最多動員数 : 2,688人

4/9 vs 巨人

@坊っちゃんスタジアム

- ・2年連続リーグ総合優勝達成
- ・総観客動員数は140人/1試合減となりましたが、地域貢献活動の実施で県民球団としての存在感を高めることができました。

# 球団収支・スポンサー数



(単位：千円)

	2014年	2015年	2016年	前年比	2017年 (目標)
収入	148,280	157,885	163,300	103%	158,000
支出	146,476	155,426	160,800	103%	153,000
経常利益	1,804	2,459	2,500	102%	5,000
スポンサー数	122	209	221	106%	200

## 【球団収支実績・目標】

- ・ 2012年度より5期連続黒字決算となりました。
- ・ 2017年度は後援会員の拡充と来場者数の増加(1,000人／1試合)を目標とし、6期連続黒字を目指します。
- ・ 河原新監督体制のもと、複数名のドラフト指名を目指します。
- ・ 台湾遠征・親睦交流会／7月下旬



# 徳島インディゴソックス 球団経営報告

# 徳島球団会社概要



- 球団名：徳島インディゴソックス球団
- 球団社長：南 啓介
- 運営会社：  
株式会社パブリック・ベースボールクラブ徳島
- 設立年：2012年
- 資本金：48,000,000円
- 社員数：3名
- 主要スポンサー：阿波製紙(株)、ゆめタウン徳島、  
(株)徳島銀行、(株)シエモア 他



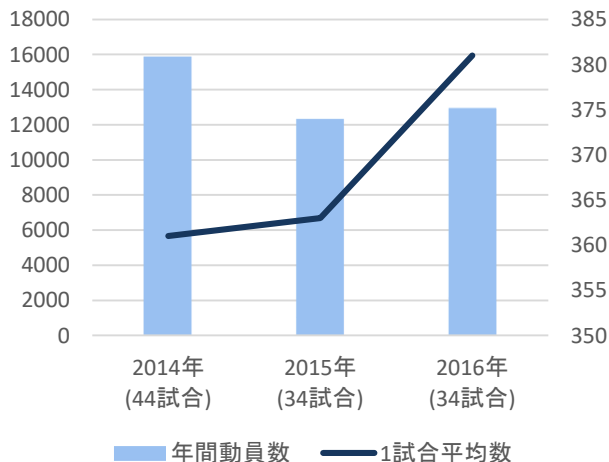
# 徳島球団観客動員



	2014年	2015年	2016年	前年比
年間動員数	15,864 (44試合)	12,351 (34試合)	12,956 (34試合)	105%
1試合最多動員数	1,345	825	1,507	183%
1試合平均数	361	363	381	106%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

観客動員数推移



## 2016年ホーム試合

最多動員数 : 1,507人

5/18 vs 巨人

@JAバンク徳島

- ・年間動員数、1試合最多動員数、1試合平均動員数のいずれも昨年比増となりました。
- ・張泰山選手の影響による、台湾での注目増、そして台湾からの観客増も大きな後押しとなりました。

# 球団収支・スポンサー数



(単位：千円)

	2014年	2015年	2016年	前年比	2017年 (目標)
収入	87,795	58,290	81,732	140%	81,000
支出	88,864	79,325	81,324	102%	80,000
経常利益	▲1,069	▲21,035	201	黒字転換	1,000
スポンサー数	334	338	130	38%	140

## 【球団収支実績・目標】

- ・ 2016年度は黒字化を達成し、2017年度も引き続き黒字経営を行っていきます。
- ・ 外国人選手、日本人選手の育成に成功、さらなる選手強化のための環境整備を行います。
- ・ 地元企業との営業面での繋がりを緊密にし、経営安定のための事業の強化に努めます。
- ・ 地元大学との連携を強化していきます。



©2006 S.M.E

# 香川オリーブガイナース 球団経営報告

# 香川球団会社概要



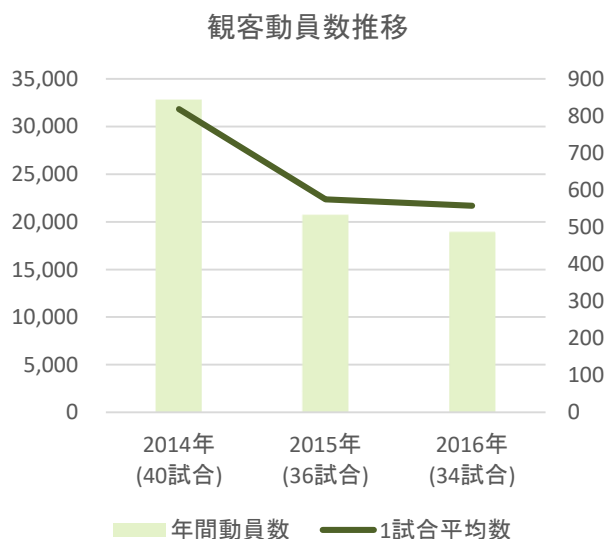
- 球団名：香川オリーブガイナース
- 球団社長：三野 環
- 運営会社：香川オリーブガイナース球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金：33,050,000円
- 社員数：4名(出向社員含)
- 主要スポンサー：(株)セイア、(株)三祥、  
今治造船(株) 丸亀事業本部、  
(株)フソウ、JA香川県 他

# 香川球団観客動員



	2014年	2015年	2016年	前年比
年間動員数	32,725 (40試合)	20,719 (36試合)	18,958 (34試合)	92%
1試合最多動員数	2,670	1,390	1,707	123%
1試合平均数	818	575	558	97%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。



## 2016年ホーム試合

最多動員数 : 1,707人

4/23 vs 巨人

@レクザムスタジアム

- ・2016年度は巨人戦の集客効果により、1試合最多動員数が増加しました。
- ・2017年度は動員増加策として、現在、1路線のみ実施のシャトルバスの路線拡大を予定しています。
- ・女性をターゲットとした公式応援キャラクター「ガイにゃーズ」を立ち上げ、女性層の集客を強化します。

# 球団収支・スポンサー数



(単位：千円)

	2014年	2015年	2016年	前年比	2017年 (目標)
収入	93,091	113,318	73,398	65%	113,130
支出	117,508	92,902	79,033	85%	112,700
経常利益	▲24,417	20,416	▲5,634	—	430
スポンサー数	107	114	122	107%	150

## 【球団収支実績・目標】

- ・2017年度は球団所有者及びそれに伴う組織体制が新たになり、単年度黒字化を目指します。  
また、これまで以上に後援会組織との連携を強め、後援者を活性化させていきます。
- ・集客イベントの強化等収益拡大のために効果的な予算計画を策定し実施していきます。
- ・選手育成面においては、精神鍛錬やフィジカルトレーナーの導入など新たな強化施策の導入を予定しており、11年連続、25人目のNPB選手輩出記録を途切れさせないよう努めます。



# 高知ファイティングドッグス 球団経営報告

# 高知球団会社概要



- 球団名：高知ファイティングドッグス
- 代表取締役：梶田 宙
- 運営会社：高知ファイティングドッグス球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金：10,000,000円
- 社員数：7名
- 主要スポンサー：(株)日本トリム、(株)セイア、  
(株)アルファコーポレーション 他



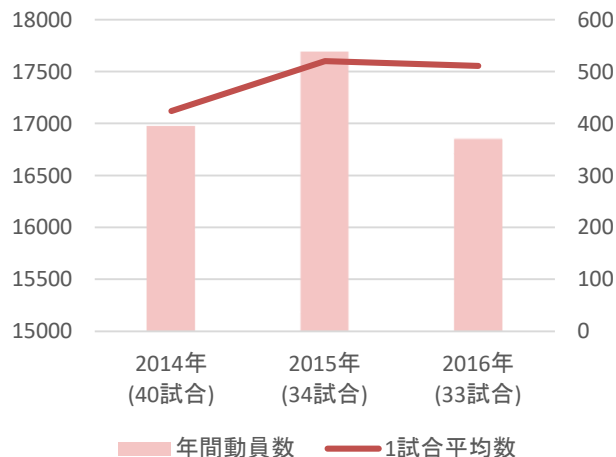
# 高知球団観客動員



	2014年	2015年	2016年	前年比
年間動員数	16,972 (40試合)	17,682 (34試合)	16,847 (33試合)	95%
1試合最多動員数	1,477	1,385	2,217	160%
1試合平均数	424	520	511	98%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

観客動員数推移



## ・2016年ホーム試合

最多動員数 : 2,217人

5/4 vs 巨人

@高知球場

- ・江本氏、駒田氏就任による全国へのPR効果、スポンサー企業様とのタイアップ効果により観客動員数維持となりました。
- ・元メジャーリーガーのマニー・ラミレス選手の入団による注目増を活かし観客動員数増へ繋がります。

# 球団収支・スポンサー数



(単位：千円)

	2014年	2015年	2016年	前年比	2017年 (目標)
収入	122,374	123,005	95,900	78%	138,000
支出	116,378	112,999	952,00	84%	137,000
経常利益	5,996	10,006	700	7%	1,000
スポンサー数	451	563	458	81%	500

## 【球団収支実績・目標】

- ・ 2014年度より3期連続の黒字決算を達成し、2017年度も単年度黒字決算を目指します。
- ・ 海外への高知FD発信(台湾遠征、韓国入団テスト、アメリカからのスポーツツーリズム、ファンを募ったツアーの実施、情報発信の多言語化、公式戦動画配信など)を積極的に行っていきます。